

2025

久野営農経済センターだより



【温州みかん】

病害虫防除 7月下旬～8月中旬

- 黒点病 ペンコゼブ水和剤 600倍 166g/水100ℓ 収穫30日前 4回
又はジマンダイセン水和剤 600倍 166g/水100ℓ 収穫30日前 4回
○カイガラムシ類・チャノキイロアザミウマ：コルト顆粒水和剤 3,000倍 33g/水100ℓ 収穫前日3回
○ミカンハダニ・ミカンサビダニ：メビウスフロアブル(劇) 3,000倍 33ml/水100ℓ 収穫7日前2回
アザミウマ類・ミカンハモグリガ

樹別摘果 (大津・青島)

裏年の樹は7月中に全摘果する。表年の樹は10月下旬の仕上げ摘果で上向きの極大果だけを摘果する。

【不知火・はるみ・湘南ゴールド】

病害虫防除 黒点病の防除が重要なので、必ず行う。

6月下旬～7月上旬

- かいよう病(単用散布)：コサイド3,000 2,000倍 50g/100ℓ (クレフノン 200倍 500g/100ℓ を加用)

7月上旬～8月中旬

- 黒点病 ペンコゼブ水和剤 600倍 166g/水100ℓ 収穫90日前4回
又はジマンダイセン水和剤 600倍 166g/水100ℓ 収穫90日前4回
○ミカンハダニ・ミカンサビダニ：メビウスフロアブル(劇) 3,000倍 33ml/水100ℓ 収穫14日前2回
アザミウマ類 ミカンハモグリガ

※梅雨明け以降晴天が続く際はサビダニが多発するためメビウスフロアブルを必ず散布する。

※カイガラムシが多数いた際はコルト顆粒水和剤3,000倍 33g/100ℓ 収穫前日 3回を散布する。

摘果

- * 不知火・はるみは樹勢維持のため生理落果開始以降、樹冠上部1/3～1/4を全摘果する。不知火は生理落果終了後に葉100枚に1果、はるみは7月下旬までに葉120枚に1果を目安に摘果する。
* 夏季に乾燥を受けると高酸になるので、灌水や敷き藁を行い、過乾燥を防ぐ。
* 湘南ゴールドは7/20時点で果実横径が20mm以下のものや、表層成りの果実を摘果する。

【う め】

病害虫防除 7月中旬～下旬

- 黒星病・環紋葉枯病 トップジンM水和剤 1,500倍 66g/水100ℓ 収穫21日前 3回
○モモヒメヨコバイ テッパン液剤 2,000倍 50ml/水100ℓ 収穫前日 2回

※近年モモヒメヨコバイが7月に多発している。発生すると光合成能力の低下や早期落葉を起し、樹勢低下を起こすため、必ず防除する。

礼肥の施用 5月下旬～7月中下旬

(目的) 樹勢回復と翌年の花芽充実のため、**必ず施用する**。梅配合 120kg/10a

【レモン】

病害虫防除 7月

- かいよう病・黒点病：コサイド3000 2,000倍 50g/水100ℓ又は
イデクリーン水和剤500倍 200g/水100ℓ (葉害軽減のためクレフノン200倍を加用)

7月下旬～8月中旬

- 黒点病 ジマンダイセン水和剤 600倍 166g/水100ℓ 収穫90日前 4回

○ミカンハモグリガ・アザミウマ類 メビウスフロアブル (劇) 3,000倍 33ml/水100ℓ
チャノホコリダニ・ミカンサビダニ 収穫14日前 2回

※梅雨明け以降晴天が続く際はサビダニが多発するのでメビウスフロアブルを必ず散布する。

※コサイド3000、イデクリーン水和剤との混用は効果低減を招くため行わない。

※カイガラムシが多数いた際はコルト顆粒水和剤 3,000倍 33g/水100ℓ 収穫前日3回を散布する。

※ジマンダイセンが散布できない場合、キノンドー水和剤80 800倍 125g/100ℓ 収穫30日前3回を散布する。

【キウイフルーツ】

病害虫防除 7月上旬

○果実軟腐病 ナリアWDG 2,000倍 50g/水100ℓ 収穫前日2回

○キウイヒメヨコバイ・カイガラムシ類 モスピラン顆粒水溶剤(劇) 2,000倍 50g/水100ℓ 収穫7日前3回

○カメムシ類発生時 スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 50g/水100ℓ 収穫前日3回

7月下旬～8月中旬

○キイロマイコガ：フェニックスフロアブル 4,000倍 25ml/水100ℓ 収穫7日前3回

夏季剪定 止め葉が出る6月中旬頃より剪定し、棚下の明るさを保つ(晴天時、地面に点々と日が射す程度)

乾燥防止対策 梅雨明け後の乾燥に注意。敷き藁や灌水を実施し、土壌の乾燥を防ぐ。

【お茶】

病害虫防除

6月下旬～7月上旬

○輪斑病・新梢枯死症

カスミンボルドー1,000倍100g/水100ℓ

※剪整枝後、出来るだけ早く(3日以内)散布する。

摘採14日前2回

7月中旬～7月下旬

○チャノミドリヒメヨコバイ・チャノキイロアザミウマ
チャトゲコナジラミ※夏整枝後、2週間を目安に散布。

コルト顆粒水和剤3,000倍33g/水100ℓ
摘採7日前2回

① 二番茶を摘採した場合の管理

整枝作業 ※整枝を怠ると摘採面が不揃いになりやすく、来年の一番茶の減収を招くので必ず行う。

整枝時期：二番茶摘採10日後を目安に、遅れ芽が出揃ってから行う。

整枝位置：二番茶の摘採面

② 二番茶を摘採しない場合の管理

整枝作業 ※整枝を怠ると株面の枝が不揃いになり、来年の一番茶の減収を招くので必ず行う。

整枝時期 7月上旬を目安に、二番茶芽が出揃ってから行う。

整枝位置 一番茶摘採面の2～3cm上。二番茶芽が虫害で生育不良の際は、そこより数cm下で行う。

【水稲】

中干し 効果 ①無効分げつ抑制 ②根の活力向上 ③倒伏への耐性

④田面を固くして秋のコンバイン等の作業性を高めるなど。

田面に軽くひびが入る程度を目安に、5日から1週間程度行う。(強い中干しはさける)

土壌中に酸素を送り根の健全な生育を促す。茎数が1株20本を超えたら実施する。

追肥 中干しが終わると、追肥の時期となる。※元肥一発肥料を使用した場合追肥の必要はない。

幼穂の長さが2cm前後になった頃を追肥時期の目安にする。

はるみ・キヌヒカリ 出穂15日前頃 化成肥料 17-0-17 12kg程度/10a

てんこもり 出穂20日前頃 化成肥料 17-0-17 18kg程度/10a

施肥時期の目安(5月25日植えの場合)：はるみ・キヌヒカリ・てんこもり 7月22日前後

葉色が濃い場合や茎数が多い場合は倒伏につながる為、追肥時期を遅らせ施肥量を減らす。

出穂期の目安 (5月25日植えの場合) はるみ・キヌヒカリ 8月6日頃 てんこもり 8月11日頃

病虫害防除

7月中旬～下旬

- 紋枯病 リンバー粒剤 3～4 kg／10a 収穫30日前 2回又は
 モンカット粒剤 3～4 kg／10a 収穫14日前 4回
 出穂30日前～10日前に、株元にかかるよう散布
- イネツトムシ パダン粒剤4（劇） 3～4 kg／10a 収穫30日前 6回 常発地区は必ず散布
 ニカメイチュウ 又は スミチオン乳剤 1,000倍 100ml／水100ℓ 収穫21日前 2回
- ヒメトビウンカ スミチオン乳剤 1,000倍 100ml／水100ℓ 収穫21日前 2回

※縞葉枯病の症状が出ている株を発見したら、株ごと抜き取り園外廃棄を行う。

※2,4Dアミン塩は、有効分げつ終止期～幼穂形成期前、収穫60日前までとなっているので十分注意する。

斑点米カメムシ類について

- ・イネカメムシは7月から水田に飛来するので、発生を確認する。（日中は株元に隠れるため朝に観察）
- ・イネカメムシは不稔を引き起こし、減収・品質低下を招くので除草・早期の薬剤散布などの防除を徹底する。
- ・出穂期～穂揃い期 1回目（イネカメムシが発生している水田）
- ・出穂期の10日～14日後 2回目（他の斑点米カメムシと同時防除）

※イネカメムシ発生水田では斑点米カメムシ類の防除の際、8月下旬以降に3回目の散布を行うと効果が高くなる。

〈雑草管理〉

○出穂前：畦畔の草刈りは出穂の10日前までに。草刈後3週間程で雑草が結実し始めるので1回目の防除後、直ちに畦畔の草刈りをする。

○収穫前：畦畔草刈りは収穫期2週間前以降に行う。

【イネカメムシ】7月下旬～8月上旬 (粒剤・液剤：出穂期)	斑点米 カメムシ類 イネカメムシ	スタークル粒剤 (3kg／10a)	7日	3回
【斑点米カメムシ】8月上旬～中旬 (粒剤：出穂7日後)・(液剤：出穂10日後)		スタークル豆つぶ (250 g／10a)	7日	3回
【イネカメムシ】8月中旬～下旬 (粒剤・液剤：出穂10日後)		エミリアフロアブル 1,000倍(60～150ℓ／10a)	7日	2回
【斑点米カメムシ】8月下旬～9月上旬 (粒剤：出穂21日後)・(液剤：出穂24日後)		キラップフロアブル 2,000倍(60～200ℓ／10a)	14日	2回

＜注意＞「収穫〇日前」：定められた使用時期。記載されている収穫前日数まで散布が可能。（前日は24時間前）
 「回数」：農薬成分の総使用回数のこと。栽培期間中、何回散布可能か確認すること。

△店舗により農薬の在庫状況は異なるため、購入の際は事前確認することで円滑な購入が可能。△

農薬を使用する際は、適用作物・希釈倍数・使用回数・使用方法等の使用基準を遵守するとともに飛散防止に努め、ラベルをよく確認し、必ずラベルに基づいて使用すること。